

3.5. 視覚障害者と車いす使用者のニーズを踏まえた歩道段差の工夫事例（埼玉県熊谷市）

(1) 取組の背景・経緯

熊谷市では、基本構想策定時に実施したバリアフリー点検において、高齢者や身体障害者の協力で課題を抽出した際、車いす使用者が道路を横断するには車道と歩道の段差 2cm を上らなくてはならず、通行の大きな障害となることが課題として挙げられた。熊谷市は、その意見をきっかけに車いす対応縁石の検討を開始した。

(2) 取組の内容

車いす使用者・視覚障害者双方の要望に対応するため、他地区の先進事例を研究しながら、本市の状況に合った車いす対応縁石の検討を行った。

まず横断歩道接続部の段差工夫実験として、車いすの前輪がスムーズに乗るように、既存の縁石にスロープ状の溝を造り、車いす利用者による効果検証を行い、車いす対応縁石の可能性が確認された。



写真 3-2 構造の検討

その後、利用者の意見を取り入れながら模型の作成や現道での実験を重ね、車いす利用者に必要な平坦性と視覚障害者に必要な歩車道の判別性を兼ね備えた車いす対応縁石を考案した。



写真 3-3 効果検証の様子

この車いす対応縁石の形状は、車いすのタイヤが通る部分にスロープ状の溝を2箇所設け、段差0cmと段差2cmを1つにしたもので、溝の寸法は、視覚障害者が持つ白杖の振り幅と、車いすの前後輪の車幅、そして実験に携わった関係者の意見や検証結果を基に決定した。

製作は、熊谷市と車いす使用者、視覚障害者の共同作業により取り組んだ。車いす使用者、視覚障害者の積極的な実験への参画、製造業者の精力的な取組により、実験で指摘された改良点を製品に反映することができ、最終的な構造の決定に至った。

出典：熊谷市 HP

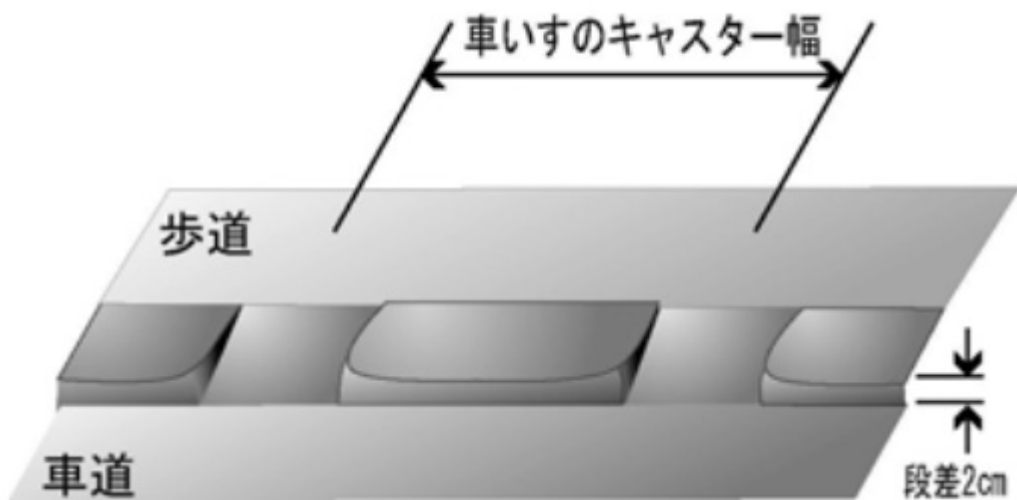


図 3-10 車いす対応縁石の形状図